

航空機戦闘報告書

1 機密

I. 一般事項

(a) 報告部隊 第16戦闘爆撃飛行隊 (b) 所属基地／戦艦 米海軍航空母艦ランドルフ (c) 報告書番号 CAG-16-4-45
(d) 発進日 1945年7月10日 時間 8:30(日本時間) (Zone); 緯度 北緯35度57分 経度 東経142度40分
(e) 任務 東京周辺の八街飛行場、成東飛行場、宮川飛行場 航空機の破壊 (f) 帰投時間 12:00(日本時間)

II. この報告書の対象となる味方航空機

機種 (a)	飛行隊 (a)	機体数			搭載兵装(1機あたり) (f)	信管設定 (g)
		発艦機数 (c)	空戦参加機数 (d)	対地攻撃参加機数 (e)		
F6F-5 (ヘルキャット)	第16戦闘爆撃飛行隊	12機	なし	10機	(a) 260ポンド(約118kg)破片爆弾2発(編隊長機は1発) (b) 250ポンド(約113kg)汎用爆弾2発(2機) (c) HVAR(高速航空口ケリット弾)2発	・機首: VT信管(近接信管)／尾部: 遅延なし ・機首: 瞬発／尾部: 遅延なし ・機首: 瞬発／尾部: 瞬発

III. 本作戦に参加した、その他の合衆国または連合国軍機

機種	所属部隊	機体数	所属母艦	機種	部隊名	機体数	所属
F6F-5 (ヘルキャット)	第47戦闘飛行隊	8機	米海軍航空母艦パターン				

IV. 観測または交戦した敵機(本報告書II項に記載の味方機によるもののみ)

(a) 機種	(b) 観測機数	(c) 味方機との交戦機数	(d) 遭遇時刻	(e) 遭遇場所	(f) 敵機の搭載兵装	(g) 迷彩及びマーキング
なし			(ZONE)			
			(ZONE)			
			(ZONE)			

(h) 推定される敵の任務

(i) 雲の中で敵と遭遇したか

該当する場合は、雲の詳細を記述

Digitized by srujanika@gmail.com

— (I)

100

100 100

△ 空中で艦隊は爆雷を吐き、敵機(本起事変II項に記載の時本機によるもの)

報告書番号 CAG-16-4-45

VI.味方航空機の損失または損害(戦闘または運用上)(本報告書II項に記載の機体のみ)

(a) 機種	(b) 部隊名	(c) 原因(敵機の機種、兵器、または運用上の原因)	(d) 被弾箇所、角度 (装甲、防漏タンク、被弾した装備を記載)	(e) 損失または損害の程度 (破壊された機体は製造番号を記載)
1 F6F-5 (ヘルキャット)	第16戦闘爆撃飛行隊	対空砲火	左昇降舵に小さな穴	外版がわずかに剥がれるも、運用上の損失無し
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				

Ⅶ.搭乗員の死傷者(本報告書II項の機体のみ。左の番号でVI項の機体と対応させること)

VIII.帰投した航空機の航続距離、燃料、弾薬データ

IX.遭遇した敵の対空砲火(各行、該当するブロックにチェック)

口径	なし	わずか	中程度	激しい
大口径- 時限信管付き砲弾、75mm以上		*		
中口径- 着発信管付き砲弾、20mm-50mm		*		
小口径- 機関銃弾、6.5mm-13.2mm				*

X.味方機と敵機の性能比較(左のチェックリストを使用)

速度、上昇力
(各高度において)
旋回
急降下
上昇限度
航続距離
防御力
武装力

敵機、空中に存在せず。

航空機戦闘報告書

(攻撃を行わなかった場合は、このシートを省略すること)

報告書番号 CAG-16-4-45

XI. 敵艦船または地上目標への攻撃(本報告書II項に記載の味方機によるもののみ)

(a)目標および場所 (1)八街飛行場 (2)宮川飛行場 (3)成東飛行場に駐機している航空機 (b)目標上空時刻 10:20(日本時間)

(戦艦については、攻撃区域内の全隻を対象とせよ)

(c)目標上空の雲 なし

(雲底の高度(フィート単位)、雲の種類および雲量(10分率))

(d)目標の視認性 視界明瞭

(e)視程

(快晴、霞、所々に雲、その他)

(f)攻撃戦術:種類 60度の急降下爆撃および機銃掃射

使用照準器 MK8

1回あたりの投下数 2発 間隔 一斉投下 投下高度 3,500フィート(約1,067m)

(水平飛行、滑空、急降下)

(フィート)

(マイル)

(種類)

(g)地上にて命中させた敵機:破壊 不明 概ね破壊 2機 損害 不明

(h) 照準点	(i) 寸法またはトン数	(j)機数 (k)部隊名	(l) 各照準点ごとの爆弾・弾薬消費量	(m) 照準点への命中数	(n) 損害(なし、軽微、重大、撃破または撃沈)
八街飛行場: 南および南西の掩体壕		8機	260ポンド破片爆弾	11発	不明
			250ポンド汎用爆弾4発	4発	
宮川飛行場: 北および西の掩体壕		8機	HVAR(高速ロケット弾)14発	16発	不明
成東飛行場: 航空機および駐機場		2機	260ポンド破片爆弾4発	4発	不明

(o)戦果: (艦船目標への全命中弾、および特に重要な地上目標については、命中弾の種類と箇所を示す図を描画すること。全ての目標について、命中箇所とその効果を記述し、上記の番号で識別すること。必要であれば、別紙を使用せよ)

八街飛行場: 格納庫地区に爆弾2発の投下。

飛行場南側の掩体壕の上空でVT信管付き爆弾4発が炸裂。

飛行場南西角の掩体壕の上空でVT信管付き爆弾3発が炸裂。

宮川飛行場: 掩体壕付近でロケット弾が炸裂。

2発の直撃を確認。ただし、損害程度は不明。

成東飛行場: 標的とした航空機の上空で2発の炸裂。損害程度は不明。

注記: 目標上空での瞬間的な通過およびVT信管付き爆弾に要求される投下高度のため、完全な損害状況の観測は不可能。

(p)写真は撮影されたか? いいえ 損害を写した写真がある場合は、ホチキスで添付すること。

航空機戦闘報告書

報告書番号 CAG-16-4-45

XII. 戦術および作戦データ(物語形式の報告と所見。左のチェックリストにある該当項目に沿って、行動の全てを記述し、自由に意見を述べること。必要であれば、別紙を使用せよ。)

敵との交戦
味方機
配置
高度
速度
接近戦術
遮蔽物の利用、欺瞞
攻撃角度とその有効性
射撃開始距離
防御戦術とその有効性
敵機
発見方法
距離
配置
高度
速度
接近戦術
遮蔽物の利用、欺瞞
攻撃角度
射撃開始距離、防御戦術
所見および提言事項
自軍の弱点
敵の弱点
攻撃戦術
自軍の攻撃戦術
敵の防御戦術
自軍の防御戦術
敵の防御砲火
自軍の護衛戦術
戦闘機管制
レーダーの活用
夜間戦闘
敵味方識別、航空機
攻撃
自軍の戦術
目標の発見方法
目標への接近 (高度、速度)
最終進入
急降下
引き起こし
急降下角度
機銃掃射
離脱
防御戦術
電波妨害の活用
敵軍の防御
回避戦術、艦船の偽装
探照灯
夜間戦闘機の戦術
電波妨害の活用
所見および提言
爆撃戦術
雷撃戦術
爆弾・魚雷の有効性
目標の選定
信管設定
機銃掃射戦術
防御戦術
レーダーの活用
偵察
写真撮影
ブリーフィング
作戦運用
航法
帰投誘導
合流
識別、艦船
通信
飛行運用
捜索および追跡
基地運用
整備

この飛行隊は、千葉半島を制圧し、八街飛行場および宮川飛行場の航空機を攻撃する任務のため、午前08時30分(日本標準時に同じ)に発艦。基地から50マイル(約80km)の地点で1機が酸素供給システムに不具合発生、2機編隊での基地に帰投。午前10時05分(日本標準時に同じ)、長者(現:いすみ市)付近にて高度20,000フィート(約6,096m)で日本本土に上陸。同時刻、さらに2機の機体の酸素供給システムに不具合が発生し、高度10,000フィートまで降下した。これら2機の機体は成東へ進撃し、飛行場の戦闘機を爆撃、その後、小さな沿岸の町にロケット攻撃を行うも戦果は未確認。そのまま、海へと離脱した。

残りのF6F(ヘルキャット)8機により半島を偵察し、空中での敵機の存在無しを確認後、八街飛行場への急降下爆撃を開始。進入方位はコース150度(南南東)で接近、最終的な急降下開始高度は11,000フィート(約3,353m)であった。高度3,500フィート(約1,067m)で爆弾投下。南東方向へ離脱、洋上の合流点に向かった。

その後、HVAR(ロケット弾)による宮川飛行場への攻撃を実施。高度11,000フィート(約3,353m)から急降下し、2,000フィート(約610m)で引き起こした。(攻撃後、)全機、南東方向へ離脱、無事、基地へ帰投。

対空砲火(AA)評価:

八街飛行場:重対空砲火はわずかで不正確。中口径も軽微で不正確。
機関銃は非常に激しかったが不正確。飛行場の東側に中口径砲10門。

宮川飛行場:軽機関銃のみ。激しく、かつ正確。

成東飛行場:中口径、軽微で不正確。軽機関銃は激しく弾幕射撃。

航空機戦闘報告書

部外秘
(記入後は再分類すること)

報告書番号 CAG-16-4-45

XIII. 資材データ(左のチェックリストに沿って、性能や適合性について自由に記述すること。必要であれば、別紙を使用せよ。)

兵装
銃、照準器
砲塔
弾薬
爆弾、魚雷
爆撃照準器
爆弾投下装置
通信
無線機、レーダー
帰投誘導装置
視覚信号
コード、暗号
通信
敵味方識別装置(IFF)
信号
手順
防御
装甲箇所、およびさらなる防御が必要な射角
防漏装備
緊急装備
パラシュート
救命帯、救命ボート
安全ベルト
緊急キット
レーション、救急用品
航法装備
コンパス
偏流測定器
八分儀
自動操縦装置
海図
飛行場灯火
計器
飛行計器
エンジン計器
酸素システム
迷彩および欺瞞装置
構造
機体フレーム
操縦翼面
操縦系統
ダイブラップ
着陸装置
暖房システム
飛行特性(様々な搭載量において)
動力装置(パワープラント)
エンジン
エンジン補機類
プロペラ
潤滑システム
始動機
排気炎減衰器
油圧システム
電気系統
補助電源装置
灯火
燃料系統
飛行服
整備
基地施設
機体整備用機材
人員用施設

3機に緊急バルブでの漏れを原因とする酸素供給システムの不具合が発生。

報告書作成者:

P.A. スミス 海軍予備役少佐、第16航空群付 航空戦闘情報士官
L.L.レオナルド 海軍予備役大尉、第16航空群付 航空戦闘情報士官

承認者:

レイ・デイヴィス 海軍中佐、第16航空群司令
E.A.クラフト 海軍予備役中佐 司令

1945年7月11日

署名

階級および役職

署名

階級および役職

日付